

令和7年度 大垣市教育振興基本計画策定・評価委員会 第2回会議録

- 1 と き 令和7年7月30日（水）10:00～12:00
- 2 ところ 大垣市役所6階 6-3、6-4会議室
- 3 出席者 長谷川 哲也委員長、田村 弘司副委員長、佐野 篤委員、
三代 広子委員、廣瀬 龍祥委員 川合 麻美委員、
渡邊 友三郎委員、山崎 幸輝委員
- 4 事務局 細江教育長、馬淵事務局長、吉田庶務課長、
林社会教育スポーツ課長、洞口社会教育スポーツ課長
安江図書館長、吉安庶務課主幹、西田庶務課主事補
- 5 傍聴者 0人
- 6 議 題
- (1) 社会教育について
 - (2) 図書館活用について
 - (3) スポーツ推進について

7 会議録

(1) 社会教育について

資料No.2に基づき、林社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	36 ページの指標の1の家庭教育支援スタッフの委嘱数が2人減少しているが、40 ページの学校支援ボランティアに登録された方をまわしてもらうことは可能か。
林 社会教育 スポーツ課長	家庭教育支援スタッフは、毎月1回、夏休みなど、子どもの相談に乗るなどの業務を行っており、対応できる方が限られている。 一方、学校支援ボランティアは各学校の見守りや整備などのボランティアである。業務が違うため、家庭教育支援スタッフにまわってもらうのは難しい。

発言者	発言概要
委員	学校支援ボランティアの方と話をする機会があったが、学校に行つて子どもたちの学習支援をする際、人数が少ないため負担がかかっているとのことであった。
林 社会教育 スポーツ課長	昨年末に実態調査した結果、学習支援の対応をしている方は少なく、多いのは校舎の清掃環境整備で、次に家庭科や図工等の授業の補助を担当する方であった。
委員	以前、小中学校の入学説明会で、家庭教育支援スタッフが話をされていたが、今はそういう要請はあるのか。
林 社会教育 スポーツ課長	各学校の企画により、入学説明会や就学時検診時に、子育て講座を実施している。
委員	40 ページの指標 1 の学校支援ボランティアは、年々増えており、大垣市は充実しているが、子どもを支える人たちを支えるのが行政の役割で、その取り組みを考える必要がある。 また、35 ページの人権教育促進事業の中に、ジェンダー平等という視点を持ってきて、男性の家庭教育への参加を進めていく取り組みがあると良い。 例えば県庁でもジェンダーに関するチェックカードなどを作っている。
委員	若い夫婦はもう当然になっているので受け入れやすい。
委員	家庭教育支援スタッフを束ねる人が、社会教育スポーツ課に何名かいるのか。
林 社会教育 スポーツ課長	1 名在籍している。
委員	県の家庭教育推進委員会との連携はどうなっているか。
林 社会教育 スポーツ課長	西濃県事務所の家庭教育推進専門職員と連携を図っている。特に最近、アウトリーチ型の企業での家庭教育という部分で、昨年度は 4 つの事業所で実施している。
委員	各学校に家庭教育学級があるが、なかなか来てもらえない。企業にご協力いただいて実施すれば、父親にも聞いていただけるような取り組みになる。 県内でも積極的にやっている市町村があるので、連携を取って進めていただくと良い。

発言者	発言概要
委員	学校統廃合が今後進んでいった場合、ボランティアやサポーターが集まりづらかったり、参加しづらかったりする可能性もあるため、地域の人が学校を支えやすい環境を整えることも重要だ。
馬淵 事務局 長	大垣市において地域の方々が、一つの学校になったことで支援のやり方がわからないところもあった。学校開校と合わせて協働本部が立ち上がり、サポートの方法が分かったので、今後増えていくよう、地域事務所も協力している。
委員	42 ページの指標 1 の考察のところで満足度に触れている。指標の実績数値は高くないが、質的な満足度は高く、意義があることを考察に書くことは大事である。
委員	32 ページの指標 2 の連携件数が増えているが、どんな事業があるのか。
林 社会教育 スポーツ課長	食生活改善協議会や体育振興会、子ども会と連携した事業など、地域団体との連携が多い。
委員	次に、32 ページの社会教育主事が増えてきていることは大変ありがたい。 また、36 ページ指標の 2 にあるように、ジュニアリーダー育成を活発に行っていることは、子どもたちの居場所づくりの一助となるほか、多くの活躍できる場があることはありがたい。 ただ、子ども会の組織自体が地域によっては成立しなくなってきているので、活発な地域とそうでない地域がある。 今後は子ども会でなくてはいけないのか、それ以外の方法があるのかなど、市がかかわって検討する必要がある。
林 社会教育 スポーツ課長	子ども会リーダースクールは年 3 回実施し、子ども会関係なしに申し込みをしていただいている。
委員	子ども会のリーダーを育てるため、リーダースクールができたが、最終的には、社会に出た時に、どこでもリーダーになれるようにと考えている。県庁に訪問した際に、江崎知事がジュニアリーダーだったと知り驚いた。 コロナ禍で実績が落ち込んだが、現在は評価が A まで回復し、安心している。年に 3 回リーダースクールを実施している成果が出ている。
委員	活動が活発に行われる所と行われていない所の差は何か。
林 社会教育	子どもが少なく活動自体が成り立たない地域もある。

発言者	発言概要
スポーツ課長	ジュニアリーダー研修に参加した子が、あこがれてリーダーになることがある。
委員	子どもたちの数が減っているのもあるが、子ども会活動を理解している大人が少なくなってきた。子ども会が何故いるのかという疑問を持っている人もいて、地域によって温度差がある。地域で子どもを育てるという地域性が変わってきている。 大垣市は、子どもたちの保険を負担していただいているので、いろいろな所へ活動に行ける。
委員	ジュニアリーダーの数値に目が行きがちだが、その後どう活躍しているかも重要であり、情報発信があっても良い。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(2) 図書館活用について

資料No.2に基づき、安江図書館長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	68 ページの考察について、読書離れで利用者が減った部分に関して、図書館を利用しない人のニーズをどのように把握するのか。
安江 図書館長	図書館を利用していない人については、以前のアンケートによると、本は自分で買うという回答であった。まずは、乳幼児の頃から読書を習慣化する取り組みを推進する。
委員	国立図書館の調査結果によると、図書館の利用者は市民の3割程度で、他の社会教育施設に比べて圧倒的に多いが、本を借りる人は3割よりも低い。 今後は、滞在型図書館として、子どもと一緒に過ごすという使い方ができるよう、どう事業構築していくかが避けて通れない議論になる。人口も頭打ちになり図書館離れが進む中、図書館の新たな機能をどう付与するかが重要である。
委員	図書館に行って本を借りて読むというのは、もう古い発想で、今の図書館はそのレベルではない。例えば石川県の県立図書館のように、行って楽しい、1日でも過ごせる、その中で本も読むという形に変わってきている。総合的な観点から考えていく必要がある。 大垣市の図書館は、限られた予算の中で、毎年新たな施策を実施しており努力しているが、今後の取り組みを検討していただきたい。

発言者	発言概要
委員	図書館の3階は利用が少なかったように感じるが、現在は、子どもの居場所として学習スペースを提供しており、良い取り組みだと思う。 ただし、本を読まない利用者がいるのが残念である。居場所づくりから、本に触れる流れをつくり、小さい頃から本を読む癖をつけることが重要である。
委員	図書館は読書も重要だが、読書だけではなく図書館を活用して様々な情報提供や学習支援をどう行うのかということが重要になっている。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(3) スポーツ推進について

資料No.2に基づき、洞口社会教育スポーツ課長が説明。

以下、質疑応答の概要。

発言者	発言概要
委員	81 ページの指標1のスポーツ活動実施率と、学校教育分野のスポーツが好きな子どもの割合に関連はあるのか。 また、令和5年度に比べ数値が一気に上がっているが、何か要因があるのか。
洞口 社会教育スポーツ課長	小中学生のスポーツ活動実施率の増加については、各地区で、スポーツ推進委員などによりスポーツイベントを実施していただいております。例えば、安井地区の「安井スポーツデイ」のような取り組みにより、何時でも誰でも参加できるような取り組みをしているため、増加につながったと考えている。 また、女子のスポーツに取り組む数が減っていることが課題と認識しており、スポーツ推進委員が各学校に出向いて出前講座をやっている中で、スポーツの楽しさを知ってもらえると良いと考えている。
委員	スポーツが民間事業者においても行われる中、行政がどこまで保障するかが難しいが、子どもたちにいかにスポーツに触れる機会を設け、楽しいと感じてもらえるかという事ではないか。 次期計画では、子どもに焦点を当てた政策や評価が特にスポーツでは重要だと考える。
委員	83 ページの「県民スポーツ大会での総合優勝の継続」の評価に関して、他の評価と異なるように感じる。 エンジョイスportsや参加型で人数を増やしていくという評価項目

発言者	発言概要
	がある中で、この目標が設定されている理由を教えてください。
洞口 社会教育スポーツ課長	県民スポーツ大会の順位は、各競技団体が、どれだけスポーツ活動について熱心に取り組んでいるかの指標と考えている。 大垣市では総合優勝が続いており、市からの補助や、体育施設を優先的に使ってもらなどしている。 各競技団体が大会に向けていろいろな活動を行い、スポーツをする人たちに積極的に声をかけて人数を増やすなど、大垣市全体のスポーツ活動が盛んになっている指標として位置づけられていると考えている。
細江 教育長	参加人数は岐阜市の方が多いが、大垣市が1位である要因は、参加種目数が多くあることで結果が出ている。 参加種目が多くて、1位というのは大垣市の体育振興の象徴になっていると考える。 1位という結果よりも、どれだけ種目に出たか、参加者がどれぐらいいるかという実績の方が大事という意見もあり、後期計画では見直した。
委員	県民スポーツ大会を見に行くことがあるが、大垣市はスポーツに熱心に取り組んでいると感じる。

総合評価について採決。異議なしのため原案のまま可決。

(3) その他

全体を通しての質疑応答の概要

発言者	発言概要
委員	第2次教育振興基本計画の前期最後の評価となった。コロナ禍が途中に入り非常に難しい評価であったが、平成30年から現在の数値変化に注目すると、大垣市が非常に頑張っている様子が確認できる。平成30年の基準値から増加している数値も多く、評価数値が上がっている姿が見られたのは、前期評価を通じて良かった点である。 こうした評価ができる理由は、大垣市が全て数値で評価している点にある。自治体によっては、定性的評価ばかりで定量的評価をやらないところもある中、大垣市は全て数値で示されているため、何年か前と比べてどうか、コロナ禍を経てどう変化しているかがわかる。ぜひ、この評価の姿勢や方法は、このまま継続していただきたい。

閉会